



6 西病棟



総務課



外来医事課



7 西病棟



8 西病棟



手術室



栄養科

なでしこ通信



かけはし

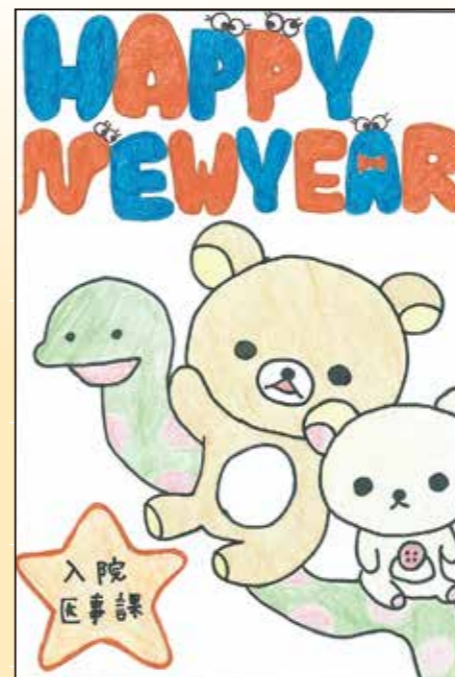
SAISEIKAI SHIGA HOSPITAL NEWS

新春

発行 平成25年1月
発行元 済生会滋賀県病院
〒520-3046
滋賀県栗東市大橋二丁目4番1号
TEL (077) 552-1221(代)
URL <http://www.saiseikai-shiga.jp/>
編集 広報活動委員会

かけはしの由来、コンセプト

● 患者さんをはじめ、地域のみなさまと済生会滋賀県病院とをつなぐ“かけはし”として、心温まる医療への思いを込めております。



入院医事課



透析センター



9 西病棟



臨床工学科



平成25年を迎えて 「超急性期病院として、良質な高度医療を提供 することで地域医療に貢献し、経営健全化の 実現を図り、済生会 80病院中ベスト5になる」

病院長 杉本 徹

謹んで年始のご挨拶を申し上げます

平成22年度から、病院標語として「医療の質の向上が、病院を変え、東ね、経営基盤を安定させる」を掲げてきました。また平成24～27年度の病院中期計画の標語は、表題の「超急性期病院として、良質な高度医療を提供することで地域医療に貢献し、経営健全化の実現を図り、済生会80病院中ベスト5になる」で、一層具体的な目標数値を織り込んだ標語となりました。今回は当院の最近の活動と「更なる医療の質の向上」に向けての新年の抱負を紹介いたします。

1. 薬剤師の病棟配置で医療の質を向上

病院の周辺には6軒のモダンな薬局が建設され、院外処方率が平成24年9月から行われています。平成23年の月平均の院外処方箋率(3.6%)は、平成24年10月には91.5%と著増しました。それに伴い平成23年の月平均の服薬指導件数(305件)は、平成24年10月には766件と著増しました。持参薬管理・服薬指導・副作用報告を徹底し、抗がん剤の調整・誤薬・誤投与を防止し、医療安全とチーム医療を推進し、医療の質の向上をはかります。

2. ドクターカーの運用から1年が経過して

平成23年9月からドクターカー運用を開始し1年が経過しました。平成24年10月の実績は70件/月(週日の日勤帯)で、心肺停止患者50例の自己心拍再開率は48%と高く、その中の2名は社会復帰可能となりました。また5歳以下の小児例では、救急医と共に小児科医が同乗して、痙攣、アナフィラキシー・ショックなどに対応し、当院の救命救急センターの役割を高めています。

3. 国民保護共同実動訓練と院内災害訓練 (平成24年10月20日)

「野洲市で走行中の列車が仕掛けられた爆弾の爆破により脱線し大破した」との鉄道テロを想定し実施しました。訓練では、職員175名が訓練内容を事前に知らされることなく、模擬傷病者120名をスムーズに受け入れることが出来ました。「備えあれば憂いなし」、災害拠点病院である当院は、相当数の患者

受け入れ体制を整えておく責務があります。

4. 医師臨床研修病院100%マッチング

当院の卒後臨床研修は、年毎に人気が増え、志願者・採用者も増加・安定しています。また平成24年4月には県内で初めて卒後臨床研修評価機構の認定(有効期間4年間)を受けました。昨年10月25日に発表の医師臨床研修病院マッチングは、県内では滋賀医科大学(34名)、大津赤十字病院(10名)に次ぐ7名(100%マッチング)でした。

5. 「頼れる病院」(ダイヤモンド社)で 県内ランキング2位

週刊ダイヤモンド(ダイヤモンド社 10月27日発行)の「頼れる病院」の全国都道府県別で、当院(得点合計87点)は滋賀医科大学(94)に次いで2位にランキングされました。ちなみに京都府内では①京都大学(90)、②京都医療センター(87)と同点、全国済生会病院では①熊本病院(95)、②横浜東部病院(90)、③埼玉川口病院(88)に次いで4位でした。一層の頼れる病院を目指します。

6. 中期計画と年度行動計画による 病院運営改革と県内初の医療の質の指標の公開

当院は、平成21年度から「医療の質の向上」を大きな目的とした病院運営改革を、①中期計画(約4年間)と②年度行動計画の2本立てで行っています。平成21年度からの努力により、平成24年1月から当院のQI(Quality Indicator 医療の質の指標)が、11ファイル、33項目に渡り、当院のホームページに、滋賀県内で初めて公開することが出来ました。医療の質の経年的成果を公開し、「病院の品質保証」を明確にし、「患者さん、職員、病院と診療所、行政・救急隊に選ばれる病院造り」を目指しています。そして「医療の質の向上」を主題とする日本医療マネジメント学会第10回京滋支部学術集会(大津、平成25年2月16日)を主催します。

以上、当院の最近の取り組みを紹介し、新年の挨拶とさせていただきます。末筆ながら皆様方のご健康とご多幸をお祈りいたします。



副院長
白井 幸裕

年頭のご挨拶を申し上げます

皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。こうしたご祝詞を申し上げますと、皆様方の中には「何を呑気なことを」とお思いの方もいらっしゃるかもしれません。

ご承知の通り、一昨年は土曜日の外来休診、また、昨年は院外処方への変更と当院におきまして、大きな運営変更を実施いたしました。これらにつきましては、現在もさまざまなご意見をいただいておりますが、医療・介護・福祉において、私たちを取り巻く大きな社会的背景があることも、また否めない事実であります。

更に、昨年末には大きな政権交代もあり、今後また、国のうごきが大きく変化することが予想されますが、「救療済生」を理念に掲げる私たちは、これからも変わりなく地域の皆様の安心と幸せな未来へ貢献する所存でございます。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



看護部長
松並 睦美

謹んで新春のご挨拶を申し上げます

旧年中は、当院に賜りました数々のご厚情とご支援に対しまして御礼申し上げます。

地域医療支援病院として地域の皆様の安心・信頼にお応えできるように組織の一部門として看護部は、常に患者さん中心の医療(看護)サービスの向上に努め、総合的な医療を効率よく提供していきたいと考えています。そのためには、チーム医療を推進し患者さんのよき理解者としての役割を担えるように、看護実践能力のレベルアップに向け看護師育成に努めていくことが新春に想う管理者としての課題です。時には己のように蛇行しながらも視野を広め、柔軟に対応できる人材育成にむけ忍耐強く関わっていかうと思っております。昨年に引き続きみなさまのご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、新しい一年が素晴らしい年となりますように、心よりお祈り申し上げます。



事務部長
井関 敏夫

希望があふれる一年になりますように

地域のみなさまには健やかな新年をお迎えになられたこととお喜び申し上げます。

さて、済生会も平成23年の創立100周年から次の100年に新たに踏み出して2年目を迎えるようとしています。

明治44年、明治天皇が「生活苦から医療を受けられず、天寿を全うできない人たちがいることに心が痛む」との思いから、お手元金として当時の額で150万円を時の桂内閣に下賜されました。済生会はそこから始まりました。済生会の「生」は命、「済」は救う、つまり命を救うという意味です。

以来100年、済生会は40都道府県に370余施設、約5万人の職員を擁した保健・医療・福祉を総合した日本最大のネットワークグループとなりました。

今日の超高齢社会を迎え、病院から在宅までのサービスを提供できる済生会の出番、役割、使命を痛感しているところです。

本年も法人設立の原点に立ち返り、生計困難な人たちに無料または低額で医療を提供する無料低額診療事業を推進し、加えて、さらに広く生活困窮者を支援する事業にも取り組んでいきたいと決意しているところです。

また、「地域医療支援病院」として、さらには、第三次救命救急病院としてその役割を果たしていきたいと考えますので地域の先生がたはじめ皆様のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

最後になりましたが、みなさまには、健康で豊かな年を過ごされますようお祈り申し上げます。